



岩尾 秀紀

安心して泣ける私の居場所 …………… 1

日野 唯香

わたしのための願い …………… 11

松崎 智海

私を支える大きな柱 …………… 21

本文中、『註釈版聖典』の引用は「第二版」を用いています。
表紙絵・挿絵／森長あやみ

安心して泣ける私の居場所

岩尾 秀紀

お正月の風物詩である初詣^{はつもち}、日本人のおよそ八〇パーセントが初詣に行くと言いました。それが本当ならすごい数です。年の初めの楽しい風習として神社やお寺に、「ご利益^{りやく}」がありますようにと一年間のお願いを言われるのでしょうか。それは「健康」のことであったり「家内安全」^{ぜん}「商売繁盛」であったりさまざまです。

はたして私たちの思う「ご利益」って何なのでしょう？ 自分の願い通りになることが幸せであり、それが叶うことをご利益だと受け取る人が多

いかもしれません。しかし、私は思い通りにならなかったことで大切な気づきをもらえた、または何かに出遇えた、ということもたいへんありがたいご利益だと思っています。

親鸞さまのご和讃に

如来にょらいの作願さがんをたづぬれば

苦悩くのおうの有情うじょうをすてずして

回向えこうを首しゅとしたまひて

大悲心だいひしんをば成就じゆじゆせり

〔『註釈版聖典』六〇六頁〕

とあるように、この私の悲しみ苦しみを見抜き、苦悩に生きるものを

めあてとして決して捨てないと起こされたのが阿弥陀さまの願いだと、お聞かせいただけます。同じ「願い」といっても、自分の都合ばかりの私の願いと仏さまの願いには大きな違いがあるようです。

もうずいぶんと昔のことになりますが、私がまだ若住職と呼ばれていた頃、三十代半ばの女性の葬儀をお勤めしました。その方は夫であるＴさんと小学校にあがる前の女の子と男の子の四大家族でした。Ｔさんはそれまであまりお寺にお参りされたことのない方でしたから、お葬式から四十九日（満中陰）までの仏事はほとんど初めてのご経験であり、いろいろとご相談を重ねるうちにＴさんと私の付き合いが始まりました。

四十九日の法要も無事に終え、やがて年末を迎えた頃、たまたま近所のスーパーで、子どもたちと買い物にいられていたＴさんにお会いしま



した。

「お〜、若住職。いいところで会った。話したいことがある」と、いつものように親しげに話しかけてくださるTさん。それは、「今度の年末年始、ウチは喪中だから神社には行くなと親戚に言われた。俺は今まで通り初詣には行きたいのに。どうしたらいい?」ということでした。

確かに年末になると「住職さん、今年ウチは葬式を出しておりまして喪中ですので、正月の神社への初詣は行ったらダメなんですよね」とおっしゃる方があります。俗信とはこのような受け取り方をいうのでしよう。

私はそもそも浄土真宗には死を忌み嫌う考えがないことをお伝えし、

「年末年始には、ぜひお寺においでください。お参りの後、あたたかい飲み物もたくさん用意してますからね」と、お酒の好きなTさんをお誘いしました。その時彼は驚いたように

「お正月にお寺へ行っていいの? めでたい時なの?」

とおっしゃったので、私は思わず苦笑いしてしまいました。「めでたい時は神さまで、悲しい時は仏さま」というイメージなのでしょうか。悲しい時も